



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第77回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 走者一・三塁、一塁走者が二塁へ盗塁前に故意につまづく行為

2死走者一・三塁。一塁走者が盗塁を試みましたが一・二塁間で故意につまづきました。これを見た捕手は冷静に三塁走者の動きを観察した後、守備側チームはランダウンドレイにより一塁走者をアウトにしました。アウト成立後、球審が攻撃側ベンチに行き、監督に注意していましたが…。

走者一・三塁の時、重盗により得点を狙うプレイは問題ありません。また、作戦上、一塁走者が一・二塁間でランダウンドレイとなる間に三塁走者が本塁に向かい、得点を狙うことも問題ありません。本ケースは一塁走者が故意につまづくことでランダウンドレイを誘うという点がマナーの上で問題ではないでしょうか。

相手のミスを生かすような故意の行動はフェアプレイの精神から外れた行為であり、更に、選手が全力かつ安全にプレイできるようグラウンドを整備されたグラウンドキーパーの方々の思いにも反する行為と言えないでしょうか。



ルール編 投手交代のルール

今春の選抜高校野球大会で、先発投手が打者1人に投げた後、中堅へ。その後に投手として再登板し、さらにもう一度、中堅に守備交代したことへの取扱い、過去には交代をめぐり試合中断という事例も発生したことから、投手交代のルールに関して明確に整理しておきたいのですが…。

投手交代に関しては、『公認野球規則』とは異なる取扱いを定めた「高校野球特別規則」がありますので、それを紹介します。

(1) 同一イニングでの投手交代の制限(5.10(d))の原注

『公認野球規則』では、「同一イニングは、投手が一度ある守備位置についたら、再び野手となる以外他の守備位置に移ることはできない、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。」と定められていますが、この規則の前段(太字波線部)に対して、「高校野球特別規則9」は、「適用しない」と定めています。投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降は他の守備位置につく事はできません。認められるのは、投手→野手→さらに野手への交代であり、整理すると以下のとおりです。

投手 ⇒⇒ 野手 ⇒⇒ 投手 ⇨⇩ 野手 【規則5.10(d)【原注】適用】

投手 ⇒⇒ 野手 ⇒⇒ 野手 ⇒⇒ 投手 ⇨⇩ 野手 【高校野球特別規則】

投手 ⇒⇒ 野手 ⇒⇒ 野手 【高校野球特別規則】

(2) イニングの初めの投手の義務(5.10(i))

『公認野球規則』では、「すでに試合に出場している投手がイニングの初めにファウルラインを越えてしまえば、その投手は、第一打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。また、投手が塁上にいるとき、または投手の打席で前のイニングが終了して、投手がダッグアウトに戻らずにマウンドに向かった場合は、その投手は、準備投球のために投手板を踏まない限り、そのイニングの先頭打者に投球する義務はない。」と定められていますが、「高校野球特別規則12」では「規則5.10(i)の取り扱いについては、高校野球の実態から鑑みて試合中に混乱を招く可能性があることから、規則適用除外とする。」と定めています。